

JHFレポート

191号 JHF

最新情報・バックナンバーは
ウェブサイトをご覧ください。
<http://jhf.hangpara.or.jp>

Japan Hang&Paragliding Federation

社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟 発行

第2回FAIパラグライディングアジア選手権レポート

第2回FAIパラグライディングアジア選手権は、徳島県並びに地元4自治体（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）の協力を得て、日本航空協会とJHFが組織した組織委員会が主催、現地実行委員会が運営をし、下記のように開催しました。

開催場所：徳島県にし阿波観光圏

日程：2010年4月29日～5月9日

参加国：日本、中国、インドネシア、インド、韓国、タイ、ウクライナ（オープン参加）の7カ国

参加選手数：93名

大会組織委員の岡さんとチームリーダーの児島さんに報告してもらいます。

報告：第2回FAIパラグライディングアジア選手権組織委員会
岡 芳樹

4月29日

レジストレーションと練習フライトの日。受付オープンと共に、昨日までに現地入りしていた海外選手と、出来るだけエリアに慣れておこうという日本人選手らがレジストレーションを始める。FAIスポーティングライセンスのサインのチェックをFAIオフィシャルが確認。また、使用グライダーがプロト機である場合に必要な書類が、

FAIカテゴリ1大会と、ワールドカップでは異なることをメーカーが理解していないなど大きく混乱した。

一方フライトのほうは、非常に良い天気ではあったが、風が強クウエイングの後キャンセルとなった。

4月30日

今日もレジストレーションと練習フライトだ。天気はすこぶる良いのだが、風が強い。昼過ぎまで待ったが、望みがないので、希望者を募りメインテイクオフとなる水の丸の見学ツアーをセットする。テイクオフエリアは、昨年より雑木を切って整理したため、かなり広がっている。明日に期待して下山する。

5月1日

朝一番に選手全員が参加のセーフティブリーフィング。

はじめに、高圧線に関して四国電力のスタッフの方から注意事項の説明がある。このエリアで初めてフライトする選手が多いだけに高圧線には特に注意してもらいたい事項である。ローカルルールにも電線に触れただけで大会失格が明記されている。

その後他の安全上の注意事項を説明。最後に、これまでの国内大会ではなじみのない、高度制限についての説明が行われた。これは今後のカテゴリ

1はもちろん、ワールドカップを含むカテゴリ2でも採用されてゆくものと思われるので、国際大会に参加する選手はマスターしなければならない事柄である。

また、ここでタスクコミッティーとして、川地正孝、上山太郎、Seyong Jung（韓国）の3選手が、そしてセーフティコミッティーとして、平木啓子、Gin Seok Song（韓国）、Adie Kumar（インド）の3選手がそれぞれ選出された。

ブリーフィング終了後、トレーニングタスクを行うべく選手は水の丸に登頂開始。

テイクオフには、正面の西寄りの風が強めに入っている。早速ダミーを出すと、調子良くゲインし、しかも思ったより動いている。夕方から開会式があるので、短めのタスクをセットし、選手の高度違反、雲中飛行あるいは、救助を必要としている選手の手助けを任務とするエアーマーシャルをだす。

少し風はピックアップしていたが、テイクオフ直後は順調に高度を稼ぐ。前に出るほどシンクがきつく、テイクオフから1kmほど出たところで尾根と同高度に。サーマルと地形による乱気流で大きく潰されあわやツリーかと思われたが何とかカバー。リーサイドサーマルで河川敷まで出ようと努力したが、最終的に水の丸の正面の谷底に無事緊急ランディング。これを見ていた選手たちは、戦意を喪失しグライダーをたたむものが出始める。それでも、ゲートを開ければ出るぞとの意思を示したのが韓国のChikyong Ha選手だった。この時点で彼がアジアチャンピオンになるとは誰もまだ知らない。

風がすぐに弱まりそうもないことと、開会式が後に控えていることから、フライトはキャンセルし下山。

5時から本部前のグラウンドにしつらえたパーティ会場で、各国選手の行進に引き続き開会式が盛大に行われた。今大会に併催されているにし阿波アウトドアフェスタの前夜祭も兼ねてい



5月2日 全員がテイクオフ。撮影：工藤修二

る。

各来賓からの祝辞に続き、現アジアチャンピオン・川地正孝選手が選手宣誓をし、大会の幕が切って落とされた。

その後、BBQと余興の阿波踊りを堪能した選手は明日からの本番に向け期待を膨らませていた。

5月2日

大会初日。吹き荒れていた風もやっと落ち、快晴の下、水の丸テイクオフで安全祈願を兼ねたオープニングイベント。各国チームリーダー、FAIオフィシャルも玉串奉天をした後、テープカットが行われ同時に風船が空高く放たれた。風船の上がり方から西風もあまり強くなく、良いタスクが出来るような予感。ダミーも順調に高度を稼いでいる。

組まれたタスクは、テイクオフ前方4.5kmにあるスタートパイロンを取って、テイクオフの後ろ1kmにもどり、対岸に渡って、東に14km移動。その後再び南の尾根にわたり、メインゴールへ戻る53.2kmの小さめなレース。

ゲートオープンと同時に選手がテイクオフしてゆく。ゲートオープンから44分で全員がテイクオフ。スタートには全員が間に合う、上出来のレーススタートだ。ここ、にし阿波の戦略は、早めに北の尾根にわたって、北からの海風が入る前に北の尾根上空に上げきって東西に移動することが基本。

しかし今日は、思いのほか、場の風が北寄りであったことと、早い時間帯に北のかぶり、いわゆる通称、紅葉降ろしが強く、先頭を切っていた集団は、あえなく撃沈するか、スタックしてしまった。高度を十分稼いで谷を渡った

第2集団以降が功を奏し、終わってみれば、37人がゴールする初日としては上出来の結果となった。

タスクを制したのは、Chikyong Ha選手。そして2位には何とシリアルクラスのグライダーに乗る若手、山口翔選手が入った。3位は、辻本恵一選手。女子の1位は韓国のJunghun Park選手、2位に平木選手、3位に高田奈緒選手が続く。国別では1位に韓国、2位にインド。日本は3位と出遅れてしまった。

5月3日

今日も快晴。ビッグタスクが出来そうな予感。テイクオフは水の丸。タスクは、昨日と同じ、テイクオフ後テイクオフ前4.5kmにあるスタートパイロンを取って、テイクオフの後ろ1kmにもどり、その後18km東の河川敷のパイロンを取り、15km西にあるこれもまた河川敷パイロンを取り、38km東の河川敷ゴールを目指す80.7kmのレース。

大部分のパイロンが河川敷にあるため、北尾根を使うか南尾根を使うか注目されたが、南尾根の実績がないためか、選手全員が、紅葉降ろしのある北尾根を使って移動。選手によっては、北の奥の尾根を使う選手も数人いた。タイミング悪く、紅葉降ろしに阻まれた選手は苦戦を強いられ、尾根上空を移動できた選手が距離を延ばす。それでも、徳島からの海風がファイナルグライドの選手を翻弄し、ゴールラインを切れたのは韓国のGin Seok Song選手と、これまたビックリのシリアルクラスのグライダーに乗る中国の女子Xiangping Hou選手の2名のみであっ

た。ゴール手前200mに韓国のSuyong PiとChikyong Ha選手が降りてしまった。タスクトップはGin、2位にXianping、3位にSuyong。女子の2位に平木選手、3位に高田奈緒選手が続く。2本成立した時点で、総合1位に、Chikyong Ha選手、2位に上妻研介選手、3位にSuyong Pi選手。女子1位に平木選手、2位に高田奈緒選手、3位にJunghun Park選手が続く。国別では韓国1位、日本2位、インドが3位に後退する。

この日のタスクで、最終パイロンを取ってゴールへ向かう途中の日本人選手が、電線にぶつかり中釣りとなったが、首にコルセットをはめるだけで手術も必要ないとのこと。不幸中の幸いであった。

5月4日

きょうも天気は良好。昨日よりサーマルが少し弱めの予報。

テイクオフは水の丸。タスクは、10km先にある対岸のスタートパイロンを取ってから、10km東に向かい、その後西へ19km戻り、さらに16km東に向かい、そこから10kmのメインゴール戻る71.4kmのレース。

ゲートオープンと共に選手がテイクオフし始め、55分で全員がテイクオフ。ほとんどの選手が時間どおりスタートを切る。高層に少し雲が張ったことにより北からの紅葉降ろしが弱めであったことと、東からの海風が比較的弱めで内陸部奥まで入り込まなかったことで、このエリアにしては、比較的コンディションは穏やかで、波乱無く56名の大量ゴール者がでた。

今日のビックリは、成山基義選手を抑えた、女子のJunghun Park選手が7秒差でトップゴール。3位には、高田征広選手が入った。女子の2位は橋本由美選手、3位に平木選手。3本終わったところで、総合1位は、揺るがずChikyong Ha選手、2位にSuyong Pi選手が上がり、上妻選手は3位に後退してしまった。女子1位に今日トップゴールを決めたJunghun Park選手が振り返り、2位に平木選手、3位に高田奈緒選手となった。国別は変わらず、1位韓国、2位日本、3位インド。

5月5日

きょうも飛べそうな雰囲気。予報では東からの海風が強めに入り、コンバージェンスラインはメインランディングより西の先まで入る予想。



吉野小河畔ふれあい広場にて開会式を開催。撮影：山崎貞一

テイクオフは水の丸。タスクはまず対岸へ渡り10km先の第2テイクオフである三頭を取った後、15km東へ向かい、そこから11km南西にある南尾根のピークを取って、メインゴールの西6kmほどにあるゴールへの16kmのファイナルグライドとなるレース。

テイクオフの風はこれまでと変わり北寄り、1度に2機を広げるのがやっと。全員が出るまでに、70分ほどかかり、時間通りスタートを切れない選手が出た。テイクオフできた選手も上がりも渋く、サーマルトップが上がるまで先に走れず、時間どおりにスタートを切れた選手は1人もいなかった。

何とか上げきって先頭集団がスタート後、しばらくたったころ選手無線が騒がしくなり、危険なコンディションを表すレベル3が連発される。対岸に低く目で取り付いた選手たちは、強めに入った紅葉降ろしに翻弄される状況に。セーフティコミッティーに無線で連絡し、その他の選手の情報も総合的に判断し13時45分にタスクストップ。その時点で先頭集団は、第2パイロンの手前まで進んでいたが、ゴール者はいなかったためルール上タスクキャンセルとなる。

5月6日

南の強風と雨の心配もあり、早々とキャンセルが決定。県西の名勝地である、大歩危・小歩危とかずら橋を見物する観光ツアーが企画された。

5月7日

本日も寒冷前線の通過とその後の強風予報でキャンセル。夕方から四国三郎の郷キャンプ場でBBQパーティ。たっぷりの食材とビールで大いに盛り上がり、選手・役員全員の国際交流の輪が広がった。最終日に期待したい。

5月8日

最終日。何とかもう1本成立させ、日本に金メダルを1個は取ってもらいたい。

予報は水の丸の風が強めなため、今大会初となる三頭テイクオフに決定。テイクオフに着いた時には、西寄りの風がリッジも取れないほど弱めに入っている。予報では、全体の場の風は西、いつも強めに入る東の海風も弱く、海から20kmほどしか内陸に入り込まず、11時過ぎにサーマルがブレイクすること。予報にそって、83.8kmのレースがセットされる。

しかし、ダミーは南東方向へ流され、テイクオフへ戻ってくるのに苦労している様子。思ったより北西風が強い。いくつかのパイロンを変更しレースを組み直す。しかしそれでも難しいような動きをダミーがし続けるので、その後再度タスクを変更し、テイクオフ後6kmにある南の尾根にスタートパイロンを移し、そこから26km東にある北の尾根のパイロンを取り、そこから9km東にある河川敷のゴールへグライドする40.5kmのエラプスタイルレースに大幅変更。

ゲートが開いた直後は、風は弱く時折無風になるくらいであったが、時間と共に、ブロー交じりで強く吹きこみ始め、ゲートオープンとクローズが繰り返されることに。

タイミングを見て1機ずつテイクオフ。早いタイミングでテイクオフした選手は一時上げるのに苦労していたが、サーマルトップが上がるのに合わせ高度を稼ぎ、良い高度でスタートパイロンへ向かう。2, 30機の先頭集団が移動した後、選手たちは強くなった場の風に翻弄され始め、高度もあまり上がらず、南へ流され、仕方なく沖のサーマル狙いでスタートパイロン方向へ向かう。

その後テイクオフの風は強風が続く、結局タスク成立要件のゲートオープン累積時間が足りなくなり、タスクはキャンセルに。先頭集団はゴールまで数キロまで迫っていただけに大変残念な結果となった。

5月9日

表彰式と閉会式が、吉野川サービスエリアに設定された舞台で行われた。残念ながら、地元の利を生かせず、日本は銀メダル2個（国別と女子）、銅メダル2個（総合と女子）で終わってしまった。

6年前韓国で開催された第1回アジア選手権では、今回同様強風に悩まされ、2本のタスクしか成立しなかった。それからすれば、3本、しかも各タスクの内容はずっと良かったので大会としては大成功と言える。

この先、第3回、4回とアジア選手権が開催されることを期待したい。

**報告：日本チーム チームリーダー
児島 彰**

今回のアジア選手権は、大陸選手権

の一つで、世界選と同じくFAIカテゴリー1の大会である。

各国の代表チームメンバーは最大6名で、その内の1名は女子枠。

チーム成績は、タスクごとにチームメンバーのなかで最も良い2名分の点数を選び出し、全タスクの合計点数で競われる。

日本代表チームは、Jリーグの国際選抜ランキングにより、上山太郎選手、平木啓子選手、武貞伸明選手、若山朋晴選手、竹内俊二選手、中川喜昭選手の6名が選ばれた。

参加枠に余裕があったので、各国の代表選手以外に、過去3年間のCIVLランキングやカテゴリー2以上の大会での飛行実績などの一定の資格を満たせば、オープン参加での個人出場が可能であり、多くの日本人がオープン参加をしていた。代表チームメンバーと個人のオープン参加を合わせて、日本人選手は約60名の大所帯である。

各国のチームリーダーを集めての毎朝のブリーフィング内容（気象情報、安全上の注意事項など）を日本選手全員に伝達するのに、バスの移動中で伝えたり、複数回の集合をかけるなどする必要があった。

日本選手は人数が多いので、他の国の小さなチームのように一つにまとめるのは難しかったが、毎日のタスク発表後には代表チームのエースである上山選手などが中心となり作戦会議を行い、日本人チームとしての一体感は形成されていた。大きな大会で、チームで戦っているということを多くの日本人選手が体感できたと思う。

天候に恵まれて初日から3日間、素晴らしいコンディションの中、連続して競技が成立した。

例年ゴールデンウィークの期間には一日ぐらいい雨が降っていたが、競技委員長の執念が中国の天気コントロールミサイル並に効いたのであろうか。

外国選手もこのエリアのポテンシャルの高さに満足しているようであった。

その後強風や雨で競技キャンセルが続いてしまったことが残念である。

結果、韓国代表チームが優勝。日本代表チームは2位となり、残念ながら自国開催の優勝を逃した。韓国は、全タスクでトップの1000点の選手を出

し、大変強力なチームであった。

日本人選手では、若手でオープン参加の上妻研介選手が、最新機体の性能を十分に引き出し、個人総合3位で表彰台に上がり、なんとか開催国の面目を保ってくれた。

女子はワールドカップなどで実績ナンバー1の平木選手が惜しくも2位に。3位に最近メキメキと実力をつけている高田奈緒選手が入った。

これまでのトップ選手に続く、新しい若手選手や女性選手が確実に力を伸ばしてきていて、各タスクで上位に食い込む場面が多くあった。今後の活躍には大いに期待できると思われる。

最後に…

チームリーダーの本来の役割は、監督のようなチームのとりまとめ役ですが、今回日本選手は約60名と非常に多かったため、短い時間で個々の選手を細かく見ることはできませんでした。

しかし、日々の競技や寝食を共にすることで、自然に日本人選手の一体感が増していきました。良い雰囲気の中大会を行うことができたのを嬉しく思います。

今回のアジア選手権は、地元の方々の多大なるご協力と、多くのスタッフの大変な努力で、素晴らしい大会にさせていただきました。このような大きな大会を成功に導いていただいたことに、深く感謝します。

また、この最高の場所で、今後もパラグライダー大会を開催してまいりますよう、お願いしたいと思っております。

【チーム】

- | | |
|--------|-----------|
| 1位 韓国 | 4位 中国 |
| 2位 日本 | 5位 インドネシア |
| 3位 インド | 6位 タイ |

【個人総合】

- 1位 Chikyong Ha (韓国)
- 2位 Suyong Pi (韓国)
- 3位 上妻 研介
- 4位 Seyong Jung (韓国)
- 5位 藤木 芳猛
- 6位 上山 太郎

【個人女子】

- 1位 Junghun Park (韓国)
- 2位 平木 啓子
- 3位 高田 奈緒
- 4位 Xiangping Hou (中国)
- 5位 橋本 由美
- 6位 中目みどり

入賞者のコメント

個人総合優勝 Ha Chikyong 選手

吉野川エリアは、大変素晴らしいエリアでした。アジアで最もパラグライダー競技に適したエリアの一つだと思います。是非、JHFによるワールドカップをこの吉野川エリアで開催して欲しいです。どうも、ありがとうございました。

個人総合3位 上妻研介選手

最初のタスクで6位となり、調子が悪かったので、優勝を狙って頑張ったのですが、最終的に2位と7点差の3位となり、少し残念でした。しかし表彰台に上がれて、日の丸を上げることができたことには満足しています。

本大会から最新のグライダーに乗り

換えたのですが、大変素晴らしく最高！でした。大会中は地域の方々に大変なご協力いただき深く感謝しております。

個人総合6位 上山太郎選手

個人・チーム共に勝ちたかったのですが、届きませんでした。もっと速くなります。選手権としては、素晴らしいエリアのポテンシャルを発揮し、最高の大会だったと思います。大会を支えていただいた皆様ありがとうございました。

女子2位 平木啓子選手

金メダルでなくて、ごめんなさい。最初から、少し調子がよくなかった上に、予想外に韓国の女子が強くなっていました。油断していたわけではないのですが、残念ながら優勝を逃してしまいました。次の機会には、アジアとは言わず、世界で優勝します！！

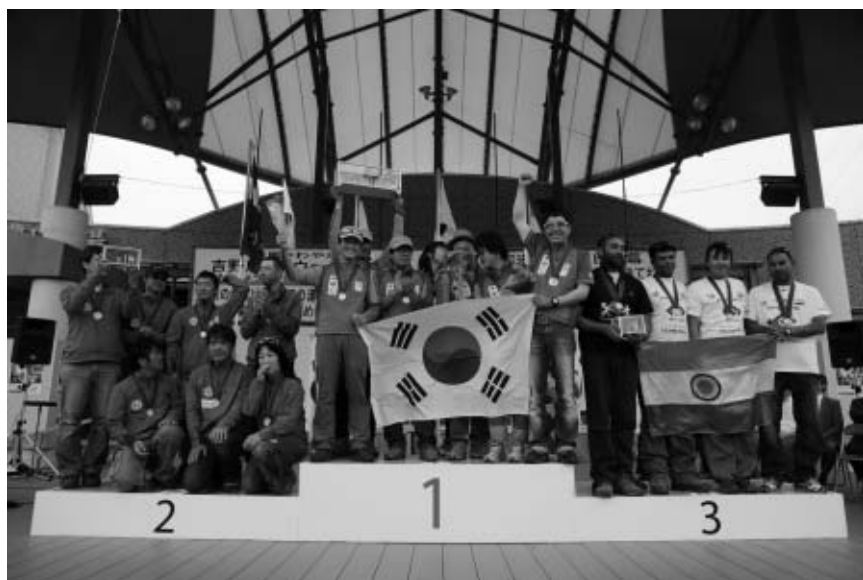
女子3位 高田奈緒選手

大会に出られただけでも嬉しかったのですが、表彰台に立つことができ、夢のようでした。海外の選手と一緒に飛ぶのは初めてだったのですが、大変よい経験をさせていただきました。

四国のエリアは素晴らしく、地元の方々に暖かく迎えていただきました。

すごく素敵なエリアだと思いました！

※大会の写真は第2回FAIパラグライダーアジア選手権ウェブサイトのギャラリーでご覧いただけます。



団体。左から日本、韓国、インド。 撮影：山崎貞一



総合。左からSuyong Pi、Chikyong Ha、上妻選手。



女子クラス。左から平木、Junghun Park、高田選手。

2009年度の報告と2010年度の予定

2009年度報告

◇フライヤー登録会費改定

20年間以上にわたって据え置いてきましたが、2009年6月17日開催のJHF通常総会において会費値上げの提案が議決され、2010年1月に会費を改定しました。

新会費は、1年5,000円 3年14,500円 自動振替（1年のみ）4,800円です。

改定の大きな要因は、事故による高額な保険金の支払いが相次ぎ、引受保険会社が赤字となり、1人当たりの保険料が約3割の値上げとなったことです。保険が掛けられなくなり、自分で損害を補償することになったら、困るのはフライヤー自身やご家族です。会員の皆様には会費改定により大きな負担をおかけしますが、今後もフライト環境を存続させるためにもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。万一の事故で保険会社へ保険金請求の連絡をする際は、他の賠償保険のご加入がないかの確認をして、その旨の報告もお願いします。他の賠償保険と合わせることで支払われる金額は変えずに、JHF側の負担を減らすことができます。

◇2009年度・2010年度の

JHF理事・監事

2009年JHF通常総会での役員選挙で、正会員により理事9名、監事1名が選任されました。2011年6月の通常総会で新役員が決まるまでこのメンバーでJHFを運営します。

- ・会長 内田孝也（東京）
予算編成、他全般
- ・副会長 菊池守男（神奈川）
補助動力委員会、教員・スクール事業委員会、安全性委員会、予算編成
- ・常任理事 大沢豊（茨城）
HG、PG競技委員会、無線機
- ・常任理事 城涼一（静岡）
安全性委員会、制度委員会
- ・常任理事 安田英二郎（神奈川）
制度委員会 広報
- ・理事 荒井健雄（栃木）
教員・スクール事業委員会、予算編成
- ・理事 市川孝（埼玉）
制度委員会

- ・理事 工藤修二（埼玉）
PG競技委員会、広報、無線機
- ・理事 山口淳一（神奈川）
補助動力委員会
- ・監事 對馬和也（埼玉）

◇委員会

JHF常設委員会は、ハンググライディング、パラグライディングの普及と発展、事業推進のため常日頃尽力しています。2009年度末に公募を行い2010年度、2011年度の常設委員会メンバー（下記 敬称略）を理事会で選任しました。定員に満たなかった委員会（PG競技、安全性、補助動力、制度）は募集を続けています。ご協力いただける方はJHF事務局にご連絡ください。

●ハンググライディング競技委員会

（定員5名）

板垣直樹（委員長） 内田秀子
北野正浩 松村貴博 牟田園明

●パラグライディング競技委員会

（定員5名）

岡芳樹（委員長） 児島彰

●補助動力委員会（定員5名）

須藤彰（委員長） 椋本清治

●教員・スクール事業委員会

（定員6名）

岩橋亘（委員長） 伊尾木浩二
桂敏之 片山芳和 小林秀彰
塩坂邦雄

●安全生委員会（定員6名）

桂敏之（委員長） 伊尾木浩二

大門浩二 外村仁克 目黒敏

●制度委員会（定員5名）

小林秀彰（委員長） 中瀬誠

◇教員・助教員

2008年度より各地で再開することができた教員・助教員更新講習会は、2009年度は13箇所で開催、84名の教員・助教員が受講しました。また、教員検定は14名が受検、10名の新教員が誕生、各地で活躍しています。

また2009年度は、実際に練習生を指導しながら何らかの事情で、教員検定受検するための資格を確認できない方を対象に受検の機会を与えることを目的として、全国から希望者を公募し、教員検定を受けられる経験、技量に達しているかを教員・スクール事業

委員会が判定し、4名に教員経歴証明書を発行しました。

◇安全

事故を無くすことが目標ですが、残念ながらハンググライダー3件、パラグライダー3件の死亡事故が発生しました。

安全啓蒙活動としては、緊急時にレスキューパラシュートを確実に使えるよう、正しい使用方法、ハーネスへのセッティング方法、リバック方法を普及させるためにレスキューパラシュートに関する技能認定証・レスキューパラシュートリバック認定証制度を4月1日より開始しました。日常的にリバック作業をしている方の検定会を開催し、初代認定者5名を含め101名の方がリバック認定証を取得しました。また、リバックとはどういう仕組みを知識として確認するための講習会も各地で開催しました。

◇普及

JHFは、普及活動の一環として、日本航空協会が行なっている航空スポーツ教室（小学生対象）に参加しています。2009年度は東京都で2ヶ所、岩手県1ヶ所、兵庫県1ヶ所で開催され、正会員の協力を得てパラグライダー体験会を担当しました。

◇会費の口座振替

2009年度末のフライヤー会員有効登録者は10,524名。前年度に比べ6.6%減少しました。登録更新忘れを 방지、無保険飛行をなくすために導入をした口座振替は、延べ1,249名の方にお手続きいただきました。

◇公益認定

2008年12月の新法人三法完全施行に伴い、JHFは公益社団法人の認定を目指しています。公益法人制度改革三法特別委員会（略称：三法委員会）の提言をもとに、定款や規約等の変更案を作成し、2010年6月1日のJHF通常総会に上程します。これらは、総会承認後公益認定申請が通り、新法人になった時に初めて有効となります。

◇技能証規程の改定

2009年5月理事会にて議決した技能証規程は、6月17日総会にて正会員に説明し施行しました。(一部は新パラグライディング教本発行後施行)

今回の改定では、IPPIカード(国際技能証)との整合性を図り習得課目が見直されています。規程はJHFウェブサイトの「制度総覧」のページでご確認いただけます。

2009年度の収支

JHFの予算も総会で決まります。4月1日から6月総会までは前年度並みの出費を前提として活動を行います。

第三者賠償責任保険の保険料が2009年1月から値上げとなり、会費改定は2010年1月からであったものの、緊急

圧縮をしたレベルでの運営により繰越資金を残すこととなり、財政の危機を克服したとご理解いただきたいと思えます。

2010年度の予定

2010年度の事業計画と予算案は理事会が策定し、6月1日総会にて採決される予定です。

公益認定のためにも、健全な収支バランスを実現し、無駄なく有効な事業に配分し、ハンググライダー、パラグライダーの愛好者を増やすことを目指したいと思います。

◇フライヤー仲間を増やす

技能証の発行数の減少が続いており、特に新規で始める方や若い方が減

っています。

新しく若者にハング・パラグライディングに興味を向けてもらふ事業・施策を推進し、生涯スポーツとしての位置付けから広い年齢層の人々に対する活動を展開します。

◇第三者賠償責任保険

千万円単位での保険金支払いが発生し、今後も再値上げは必至と思われる。保険引受け拒否も危ぶまれます。フライトによる賠償事故はきちんと補償していきませんが、フライヤーに自分の治療費を自分で確保するためのJHF総合保障への加入、より大きな損害賠償に耐えられるよう自動車保険などのオプションの第三者賠償責任特約も契約するなどと呼びかけていきます。

競技報告 2009年6月-2010年3月

世界選手権

2つの世界選手権に選手を送り出しました。

□FAI第5回パラグライディング・アキュラシー世界選手権

第5回目となるパラグライディング・アキュラシー世界選手権が2009年6月20日から26日の日程で、クロアチアの首都ザグレブの北100kmほどにある、イヴァネッツで開催された。参加選手は、17ヶ国から86名。日本、中国、台湾の3ヶ国を除けば全てヨーロッパからの参加だ。中国、台湾は初参加。日本は2度目となる。

大会会場は、テイクオフが2ヶ所、ランディングも2ヶ所が風の向きによって用意されていた。南向きのテイクオフは助走距離が短いクリフに近いものだが、ランディングはとて広くフラットな理想的なもの。一方北向きのテイクオフは、なだらかな斜面で理想的だが、ランディングは逆に狭く僅かだが傾斜している。主催者としては南向きのテイクオフがメインとなると読んでいたようで、メインランディングにテントや、リアルタイムに結果や画像を配信する設備を用意していた。

しかし、大会が始まると連続して3日間、強風と雨で競技はできず、いきなり観光モードに入ってしまった。かなり気合を入れていただけに、拍子抜けしてしまった。4日目も小雨の降る

朝で開け、選手権成立も危ぶまれたが、何とか雨が上がり第1ラウンドが開始され、予想通りの強豪選手は良い成績でスタートしたが、予想外に中国選手が健闘していて驚かされた。日本選手は、安定せず出入りの激しい成績で、3ラウンドが途中まで終了した時点で競技初日が終了しチーム成績は6位であった。

何とか巻き返したい日本チームであったが、翌、最終日に山谷選手が第5ラウンドに、0cmをたたき出したが、時すでに遅し。チーム成績は6位のままで選手権終了となってしまった。



トレーニングフライト初日の日本チーム(宿舎前)。



選手兼チームリーダー岡選手のフライト。

終わってみれば、中国の台頭が目まましい大会で、アジアにライバルが出来たことで日本にとっては良い刺激となった。

選手兼チームリーダー 岡 芳樹

【チーム】

- 1位 スロベニア
- 2位 中国
- 3位 ブルガリア
- 6位 日本

【個人総合】

- 1位 Zhang Shupeng (中国)
- 2位 Chen Haiping (中国)
- 3位 Ondrasek Martin (チェコ)
- 21位 岡 芳樹 24位 川村 眞
- 36位 横井 清順 42位 山谷 武繁
- 59位 菅野 剛広 67位 本野 広子
- 72位 茂呂 可寿美

【個人女子】

- 1位 Kostova Elena (ブルガリア)
- 2位 Tomaskova Marketa (チェコ)
- 3位 Bicanin Milica (セルビア)



ランディングする菅野選手。
撮影：山谷武繁

□第17回FAIハンググライディング世界選手権（クラス1）

2009年6月21日から7月4日まで、フランスのプロバンス地方ララーニュで、ハンググライディング世界選手権が開催された。32ヶ国121名の選手が参加。わが日本チームは大門浩二、平林和行、鈴木博司、田中元気、和田典久各選手と北野正浩リーダー。前回のテキサスでは国別7位。今回はさらに上に食い込みたいところ。

だがしかし、競技初日と2日目は強い北西風（ミストラル）で競技できず。気を取り直して臨んだタスク1は、158.9kmのゴールレース。山岳の複雑な気流とミストラルに負けずに高速でゴールしてきた強豪のなかには、世界選手権連勝のマンフレッド（オーストリア）の顔が。しばらくクラス1に出場せず伝説になりかけていたパイロットが戻ってきたのだ。……と、その前

にゴールしたのは、世界選手権初出場の和田。速い。上出来の18位。日本チームは7位。まずまずのスタート。

その後もミストラルのご機嫌によって競技できない日、サンダーstormで中途キャンセルの日があり、成立したタスクはゴールレース8本。開催国フランスをはじめ欧州の選手たちが強さを発揮。イタリアチームが尻上がりに調子を上げ、個人・国別ともに王座を獲得した。日本チームは善戦したが、フラットランドとは勝手が違い山岳風を読み切れなかったか、9位という悔しい結果。しかし田中と和田、若いパイロットが世界一決定戦という舞台で長縮することなく存分に競うことができたのは大きな収穫だ。

次回は2011年イタリアの山岳エリア、モンテクッコ。頑張れ、日本！

写真・文：松田 保子

【個人総合】

- 1位 Alessandro Ploner（イタリア）
- 2位 Jon Durando（オーストラリア）
- 3位 Thomas Weissenberger（オーストリア）
- 37位 大門 浩二 42位 和田 典久
- 47位 平林 和行 58位 田中 元気
- 62位 鈴木 博司

【チーム】

- 1位 イタリア
- 2位 オーストリア
- 3位 フランス
- 9位 日本



左から、和田、田中、北野、平林、大門、鈴木。



長いファイナルから次々とゴール。



トップ3。左からジョン、アレックス、トーマス。



チームトップ3。大喜びのイタリアチームを中心に。



ララーニュのテイクオフ。リッジ沿いにズラリと並ぶ機体。

日本選手権

2つの日本選手権を開催しました。

□第3回パラグライディング・アキュラシー日本選手権 in ASAGIRI

2009年12月5日～6日

静岡県富士宮市朝霧高原

1日目は2ラウンド目で雨の為中断となったが、2日目はアキュラシー日和となり8ラウンドを重ねた。日本選手権者は山谷選手が2連覇。女子日本選手権者は菊田選手。

【総合スクラッチクラス】

- 1位 山谷 武繁 宮城県
- 2位 横井 清順 静岡県
- 3位 文字 英彰 埼玉県

【女子クラス】

- 1位 菊田 久美 宮城県
- 2位 茂呂可寿美 山梨県
- 3位 稲田 瑞穂 千葉県



アキュラシー日本選手権 参加者と役員。



ハンググライディング日本選手権 参加者と役員。

□2010ハンググライディング日本選手権in板敷山スプリングフライト

2010年3月18日～22日

茨城県石岡市板敷山フライトエリア

5日間の競技日程で4本のタスクが成立し、FAIカテゴリー2の大会として、また日本選手権として3年振りに成立となった。日本選手権者は大門選手、女子日本選手権者は磯本選手。

【総合】

- 1位 大門 浩二 茨城県
- 2位 外村 仁克 和歌山県
- 3位 鈴木 由路 東京都



スクラッチクラス。左から横井、山谷、文字選手。



女子クラス。左から茂呂、菊田、稲田選手。
撮影：佐藤哲也

【女子】

- 1位 磯本 容子 和歌山県
- 2位 野尻 知里 茨城県
- 3位 内田 秀子 東京都

JHFランキング
各リーグのトップランカー

□ハンググライディングシリーズ

- 総合1位 大門 浩二 茨城県
- 女子1位 磯本 容子 和歌山県

□パラグライディングJリーグ

〔ワールドポイント〕

- 総合1位 武貞 伸明 兵庫県
- 女子1位 平木 啓子 北海道
- 〔ナショナルポイントオープンクラス〕
- 総合1位 上山 太郎 佐賀県
- 女子1位 中目みどり 東京都

〔ナショナルポイントシリアルクラス〕

- 総合1位 関口 典彦 千葉県
- 女子1位 中目みどり 東京都

□パラグライディングJ2リーグ

- 総合1位 加賀山 務 静岡県
- 女子1位 高田 奈緒 埼玉県

□パラグライディング・

クロスカントリーリーグ

- 総合1位 竹内 俊二 茨城県

□パラグライディング・アキュラシーJリーグ

〔スクラッチクラス〕

- 総合1位 岡 芳樹 東京都
- 女子1位 茂呂可寿美 山梨県

〔ハンディキャップクラス〕

- 総合1位 横井 清順 静岡県
- 女子1位 茂呂可寿美 山梨県

*大会予定や結果、登録等はJHFウェブサイト、HG競技委員会・PG競技委員会のページをご覧ください。

今後の世界選手権など

2010年、JHFは下記の世界選手権に日本チームを送り出しました。

□第12回ハンググライディング・クラス1女子世界選手権
第5回ハンググライディング・クラス5世界選手権

2010年5月8日～22日 ドイツ

日本チーム：クラス1女子 磯本容子、野尻知里、谷古宇瑞子

クラス5 板垣直樹、小林正和、境卓史、山本剛

チームリーダー 北野正浩

*結果は次回のJHFレポートで報告します。



57人の選手が日本選手権者を目指ししのぎを削った。 撮影：鈴木正男

楽しい学生フライヤー連盟を

日本学生フライヤー連盟理事長 三竹諒

2010年度日本学生フライヤー連盟(JSFF)の理事長に就任した三竹諒です。前年度は副理事長をやらせていただきました。まだ不甲斐無いところも多いのですが今回のメンバーは割と社交的な人が多いので、自分たちが率先して楽しい学連というものを作りたいと思っています。

・思う事

やはり学生フライヤーの競技人数も少ないのが現状です。近年新入生勧誘を頑張り、少しずつ増えてきているところもありますが、サークルには参加しているがハング・パラグライダーで飛んでいる人というのはあまり多くありません。むしろ、合宿などのイベントにだけ参加する人が多いサークルもあると聞きます。しかし、人数が少ないというのは、皆が皆すぐに知り合いになれるという環境でもあります。どこへ行ってもすぐに友達が出来るといえるのはあまりないと思いますので、今年は一年生を中心に皆が楽しんでもらえるような形にしたいと思います。

一年生たちが「ハング・パラって楽しい」と心の底から喜んでくれたら、次の新入生の歓迎活動にも力が入ると思いますし、そういう姿をみて、新しい子たちが「ハング・パラってどんなもんなのだろう」と興味を持ってきて

くれるのには、時間はかかるでしょうが、フライヤー人口が増えていくと思います。

・今年

上でも書いたとおり、今年は皆で楽しくやっていくことを目標にしていきたいと思っています。また今年は例年11月に行っていた新人戦を9月の砂丘合宿(鳥取)と同時に行い、山飛びをしていない一年生でも気軽に、もう山飛びをしているけど自分の技量を見直す形で二年生も参加して、他のエリア同士の交流と学生フライヤーのモチベーションをあげられる大会にしていきたいと思っています。あと今年は積極的にウェブサイトの更新をしていくことで周りにハング・パラの楽しさを広げていこうと思います。個人的には動画を作成して公開していきたいとも考えています。

これからも学成フライヤー連盟への応援、ご指導ご鞭撻をよろしく申し上げます。

日本学生フライヤー連盟
<http://jsff.org/>

2010役員名簿
理事長：三竹諒
副理事：中村昂一郎

二杉瑠香

地区理事

東北：駒木 華凜
北陸：本田尚美
関東：田垣有美
関西：吉田和生
中国：石川晴樹
九州：徳永竜之助

HGリーグ：鈴木絢子

松田晃明

松田祐樹

PGリーグ：土田克茂

浜口拓也

中嶋登

HG審議会：加藤祐士

田盛公

戸田隼也

PG審議会：鈴木雄三

今西孝志

HP管理：中村昂一郎

会計：鬼頭愛

名簿管理：岡部弘祐

2010年度大会スケジュール (予定)

8月前半 NASAS (HG/尾尾)

後半 尾神岳SC (PG)

9月 砂丘合宿及び新人戦
(HG/PG)

10~11月 西学 (HG/龍門)
パラフェス (PG/十分一)

3月 HG学選
PG学選



2010年度日本学生フライヤー連盟総会の様子。



総会の夜、懇親会。先輩後輩に熱く語っているところ。

JHF安全性委員会から

JHF安全性委員会委員長 桂 敏之

この4月から各委員会の任期が新たになり、安全性委員会では従来の3名に加えて新たに2名が委員となりました。今年度は制度立ち上げ2年目となるレスキューパラシュートリパック認定証の技能フォローと、事故撲滅のための安全啓蒙の新たなアプローチにも力を入れていきます。

さて、すでにJHFスクール・クラブ通信でも発表しているとおり、JHFでは事故情報の把握に努め、2002年から2009年までの事故報告書と一般報道による情報を集積してきました。これらの事故情報の内容を分析し、事故発生要因となったと思われる現象と結果の傾向を把握するように努めています。

これら事故情報の報告に協力いた

いた方々に感謝するとともに、報告されなかった小事故もまだまだ多いと思われれます。より多くのパイロットがいろいろな事故例を知り、事故の傾向を把握することは、安全で楽しいフライト活動につながるとも有益なことで

すので、パイロットの皆様には、今後さらに事故報告の協力をお願いします。

では、以下に2002年から2009年の死亡事故について、集積した情報を掲げます。

ハンググライダー及びパラグライダー死亡事故件数 (2009年12月31日現在)

年	ハンググライダー	パラグライダー	モーターパラグライダー	計
2002	3	5	3	11
2003	1	5	0	6
2004	2	5	1	8
2005	2	3	0	5
2006	0	2	0	2
2007	2	3	3	8
2008	0	3	1	4
2009	3	3	2	8

JHF事故報告書2002年～2009年データベースから

JHFでは、事故を繰り返さないために、事故報告書等をもとにデータベースを作成しています。

次ページはデータベースから2002年から2009年までの死亡事故だけを抜き出したものです(2009年12月31日現在)。合計52件。機種別の内訳は、ハンググライダー11件、モーターハンググライダー1件、パラグライダー30件、モーターパラグライダー10件です。

「取得技能証」が空白になっているのは、JHFの技能証を持っていなかったことを示します。JHF技能証所持者では、ハンググライダー事故者の80%、パラグライダーでは82%がパイロット証以上の技能証を持っていました。

「一時発生事象」で目立つのは、パラグライダーの「潰れ」で、40%に。「急旋回」の10%と合わせて50%を占めます。この数字から、パイロット技能証以上のパイロットでも、潰れや急旋回(スピン)での経験が不足している、またはこれらの状況に対処する回復操作(レスキューパラシュートの使用を含む)のスキルが未熟であることが想像されます。

海岸や河川敷など水辺で飛行することが多いモーターパラグライダーでは、「着地場所」が水面というケースが突出しています。

表内の略称

[機種]

HG：ハンググライダー

MHG：モーターハンググライダー

PG：パラグライダー

MPG：モーターパラグライダー

[技能証]

A：練習生A級証/A級パイロット証

B：練習生B級証/B級パイロット証

C：練習生C級証(HG)

NP：ノービスパイロット証(PG)

P：パイロット証

X：クロスカントリー証

M：MPGパイロット証

T：タンデム証

I：教員証

S：助教員証

ウェブから事故報告を

JHFウェブサイトの安全性委員会のページに事故報告方法の説明と入力フォームがあり、ウェブにて報告いただけます。

万一事故が起きてしまったら関係者で重複してしまってもかまいませんので必ず早期にご報告をお願いします。

事故防止に役立てるため「間一髪で事故に至らなかったが危なかった」というインシデントについての報告もお願いします。誰かの「ヒヤリとした」体験を全フライヤーが共有できれば、事故減少につながるでしょう。

ぜひご協力ください。インシデントの報告も同じ事故報告のフォームからです。

従来の書類やメールやファックス等でもご報告いただけますので、JHF事務局にご連絡ください。

死亡事故の要因

年	機種	取得技能証	直前行動	一次発生事象	着地状況	着地場所
2002	PG	X	着陸進入	急旋回	激突	草地
	PG	A	離陸	浮遊せず	激突	舗装
	MHG	I	旋回飛行	急旋回	激突	車両
	HG	X	不時着	樹木との激突	激突	舗装
	PG	X	直線飛行	潰れ	落下	不明
	PG		不明	潰れ	激突	草地
	HG	B	不明	構造物との衝突	激突	構造物
	MPG	XM	不明	不明	不明	水面
	MPG		不明	不明	落下	水面
	PG	X	直線飛行	失速	激突	田圃
2003	MPG		不明	不明	落下	田圃
	PG	X	直線飛行	潰れ	落下	草地
	PG	P	直線飛行	潰れ	激突	岩地
	HG	P	直線飛行	他機との衝突	激突	田圃
	PG	X	旋回飛行	急旋回	激突	構造物
	PG	P	旋回飛行	急旋回	激突	草地
2004	PG		旋回飛行	不明	激突	不明
	HG	X	直線飛行	タッキング	落下	山林内地表
	PG	N	不時着	失速	酷着陸	岩地
	PG	X	着陸進入	潰れ	激突	畑地
	HG	P	着陸進入	フレア操作遅れ	酷着陸	草地
	PG	X	立上げ	強風で浮遊	転倒	裸土
	MPG		直線飛行	失速	激突	水面
	PG	B	不時着	構造物との衝突	落下	構造物
2005	PG	P	旋回飛行	潰れ	激突	山林内地表
	HG	C	不時着	アンコントロール	激突	車両
	PG	P	旋回飛行	潰れ	激突	岩地
	PG	P	着陸進入	潰れ	激突	草地
	HG	X	着陸進入	失速	激突	草地
2006	PG		旋回飛行	脱落	激突	草地
	PG	P	不明	不明	激突	山林内地表
	PG	P	離陸	失速	激突	草地
2007	PG	P	離陸	樹木との激突	激突	山林内地表
	MPG	XMS	不時着	不明	落下	水面
	MPG		不時着	機関トラブル	落下	水面
	HG	P	直線飛行	破損	激突	構造物
	PG	X	着陸進入	失速	落下	岩地
	MPG	P	不時着	不明	落下	水面
	PG	P	離陸	不明	落下	草地
	PG	X	直線飛行	潰れ	落下	山林内地表
2008	PG	B	陸上練習	強風で浮遊	激突	構造物
	MPG	P	離陸	不明	落下	畑地
	PG	P	不時着	不明	不明	岩地
	PG	N	旋回飛行	潰れ	激突	樹木
2009	MPG		不時着	不明	不明	水面
	MPG	XTM	不時着	不明	不明	水面
	HG	P	直線飛行	構造物との衝突	激突	構造物
	PG	P	着陸進入	潰れ	激突	草地
	HG	TI	着陸進入	アンコントロール	激突	構造物
	PG	P	直線飛行	脱落	激突	山林内地表
	PG	XT	不明	潰れ	激突	岩地
	HG	X	着陸	アンコントロール	激突	田圃

CIVL総会から

国際航空連盟（FAI）の国際ハング・パラグライディング委員会（CIVL：フランス語で『自由飛行委員会の略』）の2010年総会がスイスのローザンヌにあるモーベンピックホテルで、2月20日・21日に開かれました。

日本を代表するデレゲート（委員）としてJHFが推薦した岡芳樹さんが、日本航空協会に派遣され出席しました。以下は岡さんからの報告です。

議決事項：（27ヶ国・地域が出席、票数は委任状を含め31票）

特に関心が高く、重要と思われる事項を列記する（特に断らない限り、ハングライダー（HG）およびパラグライダー（PG）共通の事柄である）

1. FAIがこれまでIOC内に住所があったが移転。
2. 2010年PGアジア選手権の名称、競技委員長、日程変更とエントリー費を円建てにすることで上がることを理事会が承認したことを承認。また、エントリー総数が120人に満たなかった場合、1カ国の参加枠が最大50人となっ

ている制限を外すことを承認。

3. PG大会において、タスクを落とせるルールであった場合、WPRSポイント計算に、落とした後の本数ではなく、成立した本数を使用する。

4. 大会でのタスクの種類を増やす（例：周回コースを設定し決められた時間内にどれだけ回れるかを競う。各選手が折り返しのターンポイントを決めメインランディングに戻って来る等）提案はカテ2大会で実績を積むこと、詳細をフィードバックすることとし、今回は見送る。

5. いくつかのライブ・トラッキング装置が出回っている。観客、スコアリング、緊急時の対応などで多くのメリットがある。今後カテ1大会で使用するようになると考える場合、現セクション7では外部からの援助を禁止しているので、ルール上抵触しプロテストの対象になりうる。その場合、ライブ情報ではなく、ある時間遅らせた情報を提供することで避けることも考えられるが、緊急時の情報としては、ライブ情報に価値がある等の意見が出さ

れ、2010年版セクション7では、ライブ・トラッキング装置を使用しても問題がないようにルールを変更し、2010年のPGヨーロッパ選手権、HGプレ世界選手権で試用できるようにする。

6. 違反回数によりペナルティの大きさが変わる（例：最初の違反が警告で2回目が10%減）ような違反を同一フライトでした場合、競技委員長の判断で2回以上のペナルティを課せることとする。

7. 大会でのGAPパラメーターは、最初のチームリーダーブリーフィングで決定することとする。

8. HGクラス1グライダーのスプログの測定は、大会の安全性と、安全に対する選手の考え方に寄与しているのので今後も継続して行く。

9. 作業部会の構成者には、コンペパイロット、技術的エキスパート、CIVL理事を含めることとし、作業部会からの提案は、各国代表およびCIVL理事会に対してなされるものとし、それは、十分尊重されなければならない。また、作業部会の構成者は、



FAI

Fédération
Aéronautique
Internationale

Avenue Mont-Repos 24
CH-1005 Lausanne
(Switzerland)
Tel: +41 (0)21 345 10 70
Fax: +41 (0)21 345 10 77
E-mail: sec@fai.org
Web: www.fai.org

FAI 及び日本航空協会 - 共通の使命
普及振興 - 融合 - 養成
スポーツ競技の奨励



FAI について...

約2,000,000	各国の組織を通じて、FAI に加盟しているスポーツ人口
約14,000	樹立された世界記録
約10,000	国際競技会に参加する競技人口
1905	FAIの創設された年
約1,000	活動しているボランティア
100	世界中の加盟組織
約20	毎年実施される世界選手権
10	FAIが統括している航空スポーツの種類
6	ローザンヌ(スイス)にあるFAI本部の職員数
1	共通理念：

飛行への情熱

詳細は下記を参照：

FAI ニュース：www.fai.org

通信販売：<http://shop.fai.org>

利益相反の有無を開示し、CIVLはそれを適切に扱うこととする。

10. 2011年5月1日以降のPGカテ1大会においては、使用するハーネスは、EN1651（ハーネス強度）ならびにLTF09（バックプロテクション）規準あるいは同等の規準に則り型式登録されたものでなければならない。

11. PGカテ1大会での安全性を確保・増大させるために、2012年以降のカテ1において、EN D以下の型式登録されたグライダーのみが参加できることとする動議が提出されたが否決された。そこで、作業部会を設置し、以下の事項を検討し、スケジュールに則ってCIVLに提案することとする。

i a) プロトタイプあるいは型式登録されていないグライダーは、メーカーが最低限の安全性を証明するビデオならびにデータを集表することとする。その安全性を証明するための項目を決定する。これに関するスケジュールは2011年の世界選手権（スペイン）に間に合うようにする。

i b) 将来的に新しい規準（ENE?）を作成。

ii) さらに安全性を確保するために、例えばアスペクト、機体重量、総ライン長などに加える制限項目を規定する。これに関するスケジュールは2012年ヨーロッパ選手権（フランス）に間に合うようにする。

作業部会のメンバーは：マーティン・チュール（スイス）、グレゴリー・ヌドソン（ルクセンブルグ）、ディディエ・マチュラン（フランス）、ロバート・アーツ（フィンランド）、ハリー・ブント（ドイツ）、CIVL理事（未定）

12. PGカテ1大会参加資格項目として、現在のX本以上、Ykm以上なる文言に、Z人以上が参加した大会なる文言を追加。

13. PGの定義を変更する（剛性のある主たる構造物を持たないとの文言）かどうかについては、今後の開発が安全性に寄与することも考えられるので、現時点で狭い定義にすることは得策ではないとのことで見送られた。

14. PG世界選手権は参加国が増える傾向にあり、ベースチームサイズを小さくせざるを得ないため、手立ては？

i) 個人戦と団体戦を分け別々に世界選手権を開催する？→オーガナイザーがいるか？スポンサーが見つかるか？

ii) 女子世界選手権を開催し、+1を削除？→女子トップ選手は女子世界選手権を望んでいない。スケールメリットがないのでオーガナイザーがいるか？

現時点で良い解決策はなく、ベースサイズを1+1とし、国別ランキング順に選手を選考していくこととする。

15. 現在のPGセクション7では、カテ1大会への参加選手の資格の決定時期（大会60日前）と国別ランキングの決定時期（大会前の3カ月前の1日）が異なっており、混乱を招くので、共に大会前2カ月と同一にする。

16. PGアキュラシー大会で、テイクオフのインターバルが、現行では1.5分となっているが「1.5分を推奨するが、テイクオフディレクターが調整できることとし、選手が望むなら、1.5分を選択できる。」とする。

17. PGアキュラシー大会で、DC（デッドセンター）のサイズは大会中変更できないこととする。（現在、3cmと2cmが存在する）

18. PGアキュラシー大会で、ビデオは以下の場合にのみ、事実確認の2次の情報として使用される。

i) 陪審がプロテストに対処するため。
ii) チーフジャッジが不服申し立てを受け取ったかイベントジャッジの要請によりビデオを確認しようと決めた時。

19. PGアキュラシー大会で、イベントジャッジは、リランチの要請に対する決定を、ジャッジチームと協議するためあるいはチーフジャッジがビデオを確認すると決定した場合にビデオを確認するために15分間延期することが出来ることとする。

20. 2010年アキュラシージャッジセミナーを中国（あるいは台湾）、北米、ヨーロッパで開催。予算1500ユーロ。

21. アクシデントデータベースを今後も収集に努める。

22. 高度制限の導入に関しては、現時点で、GPS高度、気圧高度のどちらにするかは未決であるが、2009年のHG世界選手権で採用した方法を、2010年のカテ1では使用する。

23. 2010年のアクロ世界選手権はキャンセルとなったが、3月15日まで最後の可能性を探る。

24. アクロが多く国で承認されておらず、発展を妨げられている。もっとプロモートするために、大会でのア

クシデントデータを集め公表し、アクロが危険ではないことをアピールする。また、ジャッジセミナーを開催する。北米から2人の見習いジャッジをヨーロッパの大会に合わせて招へいし、トレーニングを受けさせる。また、シニアジャッジをアメリカの大会へ派遣しセミナーを開催する。これらの予算手当を6000ユーロとする。さらに、ジャッジトレーニング用ビデオ作製に500ユーロを手当とする。

25. 2010年1月以降、カテ1大会に参加するパイロットに、EN966認証登録されたヘルメットの装着を義務付ける。また、他国の基準も研究し、EN規準と比較し適切と考えられる規準をCIVL理事会に提案する作業部会を設置し予算も手当とする。

26. 大陸記録に関してはFAIウェブサイト情報にアップされている。

27. 2012年PGアキュラシーヨーロッパ選手権は、マケドニアで開催。

28. 2012年HGヨーロッパ選手権は、トルコで開催。

29. 2012年PGヨーロッパ選手権は、フランスで開催。

30. HG女子世界選手権でのチームスコアは、各タスクのベスト2の合計で算出する。

31. HG女子世界選手権でのストップタスクは、現行の1.5時間を経過していたら文言を、1時間に変更する。

32. HG女子世界選手権のチームサイズを6人とする。

33. HGカテ1大会では、プロトタイプは参加できないこととする。ただし、2010年のHGヨーロッパ選手権に影響しないように、この文言の発行期限を2010年9月1日からとする。

34. 2009年度決算は承認された。

35. 2010年度予算は、今年の総会議費と、ジャッジセミナーの予算手当を変更して承認された。

36. ペペ・ロペス、HGディプロマは推薦がなかった。

37. 来年総会開催日程：2月26、27日開催場所は投票の結果ローザンヌ。



CIVL総会 撮影：岡芳樹

デジタル無線機の貸出と購入助成

■航空レジャー用デジタル簡易無線機について

平成20年（2008）電波法施行規則の一部が改正され、簡易無線局のデジタル化及び登録制度の導入が実施されました。これにより467MHz帯と351MHz帯の周波数が割り当てられ、三種類のデジタル簡易無線局が誕生しました。351MHz帯を使用する簡易無線局は免許を必要としない登録局とし、1W5CHタイプ（種別コード3S）のものに高所および上空での使用可能な周波数が新設され、航空レジャー用として認められることになりました。登録局は登録申請と開局手続きは必要ですが免許の取得は必要ありません。

この上空用携帯型無線機は現在のところ、平成21年3月にパーテックスタンダード社が総務省の工事設計認証を取得した、VX-D291S型のみが製品として発売されています。

JHFでは販売代理店のご好意によりこの無線機5台をお借りすることができ、JHF会員の皆様でご試用を希望される方にお貸しすることになりました。ご希望の方はJHFサイ

トの「各種登録申請貸出依頼」ページから「デジタル無線機貸出依頼書」をダウンロードし、必要事項を記入して事務局にお送り下さい。貸出依頼が複数重なった場合は、JHF事務局で時期、台数を調整させていただきますのでご了承ください。

◇使用周波数：351.16875 - 351.19375MHz 6.25KHz間隔 5CH
出力：1W

送信時間：連続して5分を超える場合自動的に送信を停止し、1分後送信可能

アンテナ：固定されており取り外しはできない

電源：単三アルカリ乾電池6本使用

◇注：平成19年の電波法施行規則改正により、アナログ簡易無線機の使用期限は平成34年11月30日です。

■デジタル無線機購入助成について

デジタル無線機の普及促進を目的として、JHFでは1台5,000円の購入助成をすることと決まりました。

ご希望の方は右記条件をご確認の上ご応募ください。

応募については、

- ・2台以上の複数台を仲間やスクール、クラブ等で取りまとめ、代表者のフライヤーNo.、お名前、ご住所、連絡先電話番号、メールアドレスと、購入者全員のフライヤーNo.、お名前をJHF事務局宛にメールかFAXにてご応募ください。

- ・応募締切は7月31日にJHF事務局必着。

条件は、

- ・購入者は、原則として全員がJHFフライヤー登録をしていること

- ・応募当選した方は、購入を証明する登録申請のコピーと、3ヶ月後に機器使用についての評価書を提出すること

- ・応募が多数となった場合、助成対象の調整をJHF理事会にて審議します。業務用の一括購入の場合、台数調整を依頼する場合があります。必要な場合には、厳正な抽選により対象者を決定します。

- ・当選結果と、助成受取の申請方法等は8月末迄に代表者の方にご連絡いたします。

第1回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト

JHFでは、ハンググライダーやパラグライダーが写真を通じて出来るだけ多くの人々の目に触れることが普及のために必要であると考え、このたび、フォトコンテストを開催することとしました。フライヤーの皆様も、是非この機会にご応募いただけるようお願いいたします。

【テーマ】ハンググライダー、モーターハンググライダー、パラグライダー、モーターパラグライダーの楽しさ、美しさを表現した作品

【募集部門】

（1）空撮部門

ハンググライダー、モーターハンググライダー、パラグライダー、モーターパラグライダーを利用して空中から

撮影した写真

（2）地上撮影部門

上記（1）に該当するもの以外

【各賞と賞金】

両部門共通

・最優秀賞 1点 賞金 10万円

空撮部門

・優秀賞 2点 賞金 各3万円

・入選 数点以内 賞金 各1万円

地上撮影部門

・ハンググライダー賞（ハンググライダー、モーターハンググライダーを中心とした作品）

1点 賞金 3万円

・パラグライダー賞（パラグライダー、モーターパラグライダーを中心とした作品）

1点 賞金 3万円

・入選 数点以内 賞金 各1万円

【審査員】

Aerial Photographer 山本直洋

報道カメラマン 嘉納愛夏

JHF会長 内田孝也

【応募締切】2010年8月31日必着

【審査発表】2010年10月初旬

JHFホームページ上で発表し、入賞者にはメールで連絡します。

【応募条件】

1. プロ、アマ、年齢を問いません。
2. 未発表のものに限ります。
3. 応募に伴う費用は応募者の負担とします。

詳細は、JHFウェブサイトをご覧ください。ただかJHF事務局にお問合せください。

『JHF総合保障制度』改定!

フライヤーのための傷害保険制度である『JHF総合保障制度』の2010年度募集がスタートします。今年度で5年目を迎えるこの保険制度は、現在824名の会員の皆様にご加入いただいておりますが、過去3年間で合計162件の事故が発生し、約3,300万円の保険金が支払われております。保障制度として会員の皆様のお役にたっているとの評価の一方で、制度の安定的な運営と簡素化の観点から今般以下の改定を行うことといたしました。

◇【重要】2010年度制度改定内容

- ①入院保険金・手術保険金の支払い対象期間を事故の日からその日を含めて30日間と短縮しました。(従来は180日間)
- ②通院保険金の支払い限度日数を事故の日からその日を含めて180日以内の通院に限り30日間と短縮しました。(従来は90日間)
- ③従来お支払いの対象となっていない地震、噴火またはこれらによる津波の傷害を補償する「天災危険担保特約」を新たに付帯し補償を拡大しました。
- ④08年6月以前よりご加入の方の更新専用プランを現行の8プランから2プランに統合しシンプルな制度としました。(死亡・後遺障害保険金額を1口あたり300万円に統一)

改定により1口あたりの保険料は平均10.4%の値上げとなりますが、制度の安定的運営という趣旨をご理解いただき、安全なフライトに心がけいただくとともに制度発展にご協力いただけますようお願いいたします。なお、改定の詳細につきましては、パンフレットに挟み込みの「2010年度JHF総合保障制度」変更のご案内をよくお読みください。

◇【注目】現在ご加入の皆様へ

現在ご加入の皆様には、改定内容を反映した「更新のご案内」を別途直送させていただきますので、書類到着後必ずお手続きください。なお、お手続きされない場合は「改定後の内容に読替えた現在と同じプランで更新」させていただきますのであらかじめご了承ください。

◇JHF総合保障制度の特長

- ・国内・国外を問わず、パラグライダー(含むモーターパラグライダー)搭乗中はもとより、仕事や日常生活でのケガおよび遭難の際にかかった捜索費用等の補償をいたします。
- ・【NEW】地震、噴火またはこれらによる津波の傷害についても補償対象となります。
- ・団体割引10%が適用されますので、

保険料が割安です。

- ・ハンググライダー愛好者向けのプランもご用意しております。
- ・保険料のお支払いは口座引き落としとなりますのでお手続きが簡単です。
- ・詳細は同封のパンフレットをよくお読みください。

◇新規ご加入方法

新規ご加入される場合は、パンフレットをよくお読みいただきお手続きください。

- ・締切厳守⇒6月25日(金)必着

◇中途加入も可能です

締切終了後の加入申込は全て中途加入扱いとなります。詳しくは、取扱代理店の(株)東海日動パートナーズ・ノースワンへお問い合わせください。

◇加入者証は8月下旬頃送付します

【保険に関するお問い合わせ先】

東京海上日動代理店
(株)東海日動パートナーズ・ノースワン 〒170-0013
東京都豊島区東池袋1-35-3 池袋センタービル10階 (Tel. 03-6907-4622)
10-T-000679 2010.4作成

JHFステッカーが出来ました

JHFロゴにハンググライダーとパラグライダーの画像を加えたものと、ロゴのみのステッカーを二種類作成しました(ステッカーデザイン:ボランティア堀江譲氏)。2種類1セットを製造原価とほぼ同額の送料込み500円でお送りします。ご希望の方は、フライヤー会員No. お名前 注文セット数 住所 連絡先電話番号 メールアドレス をメール、FAX、

郵便などでJHF事務局にご連絡ください。入金確認後発送しますので、JHFの口座にお振込いただくか、50円又は80円の郵便切手で金額分をお送りください。



JHFからのお知らせ

■2010年度賛助会員募集

JHFは定款第5条に基づき連盟を側面より応援し、支えて下さる賛助会員を募集しています。

下記内容をご理解の上、ご加入いただける方はJHF事務局までご連絡ください。

賛助会員の資格：当連盟の目的（定款第3条）、事業（同第4条）に賛同し、当連盟を援助する個人、または団体を対象とし（同第5条）、業種・性別・年齢等は一切問いません。

加入方法：既定の申込書に必要事項を記入してお申込みいただき、その後理事会で承認の上賛助会員名簿に登録されます。

会費：年会費 一口 ￥20,000（口数の制限はありません）

但し理由の如何を問わず、一旦納入された会費はお返ししません。

その他：JHFウェブサイトのトップページに賛助会員ウェブサイトへの入口（バナー）を設けます。

JHFレポートを発送する際に、チラシ等の同封をご希望の場合は、格安（封入手数料実費）にて同封します。

■ボランティアを募集しています

JHFでは、助っ人になってくださる皆さんに登録していただき、助けが必要なときに声をかけ、手伝っていただく「ボランティア登録」をお願いしています。

JHF事務局での作業の場合は、交通費を往復2,000円までお支払い。事務局外の場合はその都度お知らせします。

JHFウェブサイトから登録用紙をダウンロードして必要事項を入力/記入し、事務局にメールやFAX、郵便などでお送りください。

■EN規格紹介DVD・日本語版作成

パラグライダーの安全規格・ENスタンダードについて、エア・ターコイズ社では、広報のため2009年に英語・フランス語・イタリア語・スペイン語などの多国言語のDVDをヨーロッパで無償配布しました。日本でも入手し講習会などで使用されていましたが、

テレビ方式がPAL信号でした。このたびエア・ターコイズ社の承諾を得て日本語字幕版をNTSC方式でDVDとして用意しました。

ご希望の方は、JHF事務局までお問い合わせください。

■JHFパンフレットをリニューアル

JHFパンフレットをボランティア堀江譲氏のご協力により10年ぶりに新しく編集しなおし、読みやすく、わかりやすく解説したものを作成しました（JHFウェブサイトのトピックスでご覧いただけます）。パラグライダー、ハングライダー、そしてJHFの事業と活動をより多くの人々に知っていただくためにご活用ください。ご希望の方にお送りしますのでご連絡ください。

■あなたのフライヤー会員登録は有効ですか

登録が有効でないと、第三者倍賞責任保険に加入していない状態です。万一の事故の際、第三者への責任を果たすため、またご自身を経済的破綻から守るためにも、今すぐ会員登録のご確認をお願いします。有効期限が切れている場合は、更新払込票を発送しますのでご連絡ください。

■住所変更連絡のお願い

JHF事務局からお送りした登録更新案内が「転居先不明」等で多数戻って来ます。住所を変更された方は、お手数をおかけいたしますが下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No. お名前 変更後のご住所 連絡先電話番号 メールアドレス

■口座振替のご案内

フライヤー会費は口座振替（自動振込）ができます。郵便局やコンビニに払い込みに行かず、更新忘れによる無保険飛行も防げます。年会費5,000円が4,800円で振込手数料もかかりません。

登録更新案内に、口座振替案内と申込用紙を同封していますが、更新時期ではない方も予めお申込みいただけま

すので、お問い合わせください。

■JHF備品を貸出しています

JHFでは下記備品の貸出をしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「フライヤーサポートデスク」→「各種登録申請貸出依頼」より各種貸出依頼書をダウンロードしていただき、必要事項を記入・入力して、FAXかメールにてお申込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

◇自動体外除細動器（AED）

公認大会やイベント主催者に無料で貸出。申込条件：消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ポロジメーター

キャノピー等のエア漏れを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸出。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

◇スカイレジャー航空無線機

スカイスports専用の周波数で使う無線機（465.1875MHz）。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のために貸出。貸出料は1,000円/台。申込条件：ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無線従事者に登録している方が1名以上いること。

■各種、お申込みやお問合せはJHF事務局へご連絡ください。

(社) 日本ハング・パラグライディング連盟
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-39-4
東都ビル2階
TEL.03-5961-1388 FAX.03-5961-1389
info@jhf.hangpara.or.jp
http://jhf.hangpara.or.jp/

◆賛助会員からのお知らせを同封しています。ご利用ください。

<p>JHFレポート 191号 発行日：2010年6月1日 発行：社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF） 編集：JHF事務局 印刷：日本印刷株式会社</p>
